

〔 日野郡小体研 〕 29年度のあゆみ

日野郡小体研 研究主題

「運動の楽しさを味わいながら、仲間とかかわり合い、高め合う子どもを育てる体育学習」

1. 研究仮説

運動の特性をふまえ、身につけさせたい技能を明確にし、仲間と言語活動を通じた関わりを持たせながら学習に取り組ませることで、運動の楽しさを味わいながら技能を習得できるのではないか。

◎研究の視点

- ・「わかる」と「できる」を大切にし、つないでいく指導の工夫と充実。
- ・仲間との関わり合いを通して「主体的・対話的で深い学び」につなげる授業改善。
- ・ICTの効果的な活用。

2. 主な活動

(1) 郡小体研総会（5月1日）

- 平成28年度事業・会計報告
- 平成29年度研究推進計画の決定および役員選出
- 平成30年度「鳥取県小学校体育研究大会」へ向けた取り組みスケジュールについての検討

(2) 研究推進委員会（6月30日）

- 平成30年度「鳥取県小学校体育研究大会 日野郡大会」へ向けた取り組みの協議
- 郡内授業研究会（ボール運動・体ほぐしの運動・器械運動・保健学習）についての確認

(3) 夏季一泊研修会参加（8月8日・9日）

(4) 中・四国小学校体育研究大会参加（10月27日）

(5) 日野郡小体研体育部会授業研究会

「友だちとつながって 心も体も温まろう」4年生（体ほぐし運動）

9月14日 日南小学校 永岡 康隆 教諭

「キャッチ de バレー ～江府っ子カップ2017～」6年生（ボール運動）

10月17日 江府小学校 稲田 修士 教諭

「くろにんじゃの大ぼうけん」1・2年生（マットを使った運動遊び運動）

12月11日 黒坂小学校 其山佳裕 教諭 前田美沙 教諭

「病気の予防」6年生（保健学習）

2月 根雨小学校 長谷部 崇樹 教諭

(6) 研究推進部会（随時）

(7) 全体研修・反省会（2月）

- 今年度の研究のまとめと活動の反省
- 今後の研究推進について

3. まとめ

平成30年度の県小学校体育研究大会の開催、平成31年度の中四国小学校研究大会の領域別提案（体づくり運動）に向けて郡内の4小学校が研究主題、研究仮説にもとづいた授業実践を重ねてきた。また、中四国小学校体育研究大会香川大会へ参加し、教材づくり、授業づくりに向けた研修も積むことができた。さらに今年度は新学習指導要領への移行を視野に入れ、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力の育成、「主体的・対話的で深い学び」につなげる授業改善についても検討を始めたところである。今後、さらに授業研を中心とした実践を重ね、研究を深めていきたい。

【実践事例】

第1・2学年「マットを使った運動遊び」の実践を通して

日野町立黒坂小学校 其山 佳裕

1 研究の実際

(1) 「マットを使った運動遊び」の特性

マットを使った運動遊びは、マットを使っているいろいろな方向へ回ったり、転がったり、手で体を支えたり、バランスをとったりするなど、日常の動きとは異なったいろいろな動きを体験できる楽しい運動である。動物歩き、手押し車、ゆりかご、前ころがり、カエルの足うち、壁登り逆立ちなどを通して、「腕支持感覚」「バランス感覚」「回転感覚」「逆さ感覚」等を養うことができる。また、今できる動きをより正確にできるようにしたり、組み合わせで調子よくできるようにしたり、動きの出来栄についても楽しさや喜びを味わえる運動である。さらに、様々な動きの中で、友達に補助してもらったり励ましてもらったりするなど、友達との関わりを深めることのできる運動でもある。

(2) 児童の実態

児童数9名の1・2年生の児童は、休憩時間に積極的に一輪車やおにごっこ、遊具を使った遊びなどを行い、体を動かすことが好きな児童が多い。体操教室に通っている一人を除く児童は、体育の学習以外にはマットを使った運動遊びをしていない。本単元に入る前の事前アンケートでは、全児童が「マットを使った運動遊びが好き」と答えた。その理由としては「いろいろな技ができるようになることがうれしいから」「やったことがない動きができるから」「マット運動が得意だから」というものがあつた。マットの上でできる技としては、ほとんどの児童がゆりかごやまる太ころがり、かえるの足うち、首倒立など基本となる技はできているが、完成度は高くなかった。また、前転がりや後ろ転がりの回転技や、川跳びなどの倒立につながる技ができない児童が多かった。

(3) 單元目標

○運動に進んで取り組み、きまりを守りなかよく運動したり、場の安全に気を付けたりすることができる。 【関心・意欲・態度】

○マットを用いた簡単な遊び方を工夫することができる。

○いろいろな方向への転がり，手で支えての体の保持や回転をすることができる。

【関心・意欲・態度】

【思考·判断】

【技能】

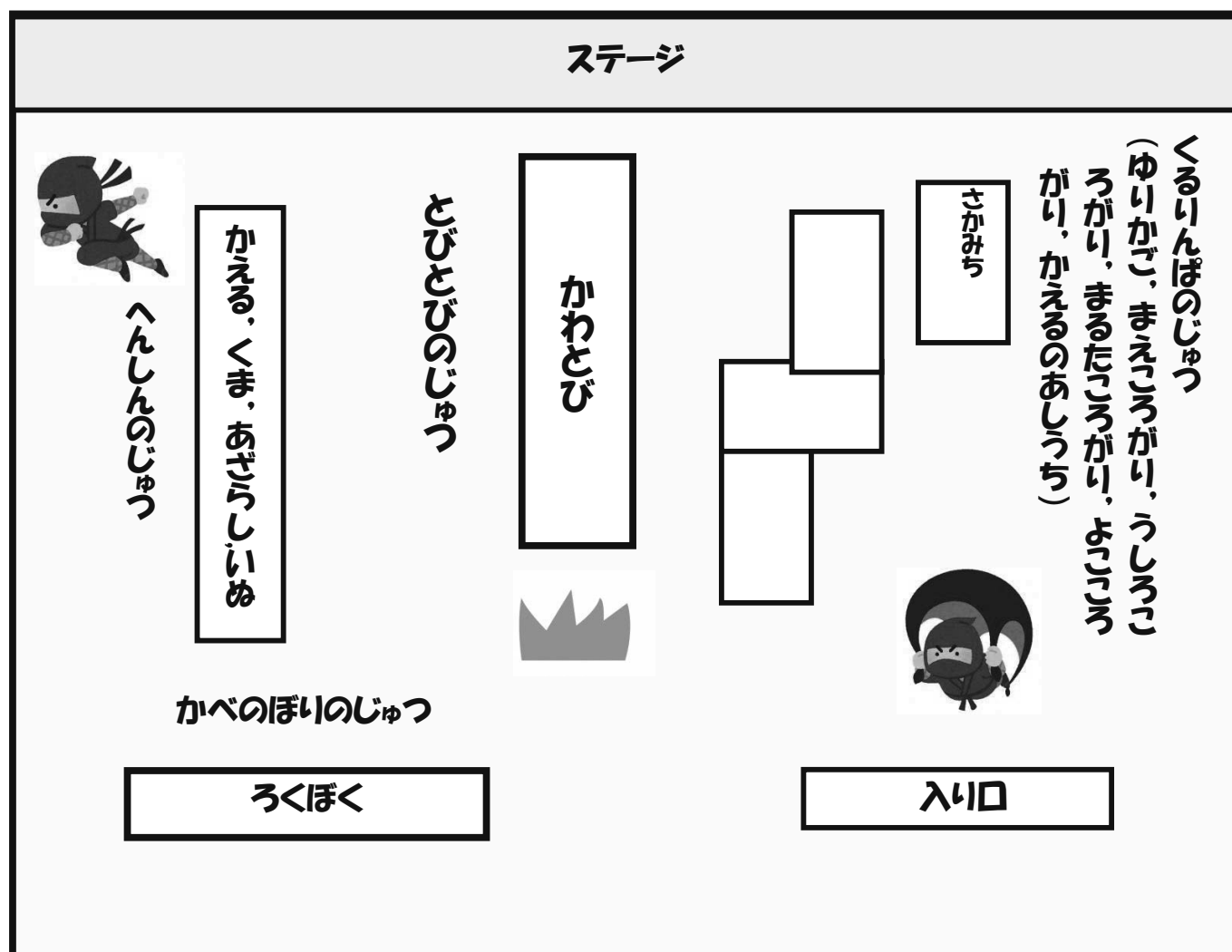
(4) 単元の流れと評価計画

		1	2	3	4	5	6	7
学習活動	どんな技ができるか確認 ・ マット運動のルールの確認 ・ 単元の学習の流れの確認	準備・あいさつ・忍者体操（手首、首、肩、股関節の柔軟） 【感覚作りの運動】 パワーアップタイム（ゆりかごジャンプ、ゆりかご首倒立、ブリッジ、ゆりかご玉入れ） 活動①いろいろなコースに挑戦する（個人） 活動②動きのポイントの確認をする。（全体） 活動③教え合いながらコースに挑戦する。（グループ） 活動①グループで術に挑戦する。 活動②グループで発表する術を考える。 活動①連続技の練習 振り返り						
評価 の計 画	学	①	②			③		④
	思						②	
	知			①	①			

(5) 評価基準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
具体的な評価規準	①マットを使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ②運動の順番や決まりを守り、友達と仲良く運動をしようとしている。 ③友達と協力して、器械・器具の準備や片付けをしようとしている。 ④運動をする場や器械・器具の使い方などの安全に気を付けようとしている。	①マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに運動をする場や使用する器械・器具などを変えながら、いろいろな運動の仕方を見つけている。 ②マットを使つての運動遊びの動き方を知るとともに、友達のよい動きを見つけている。	①いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転などができる。

(6) 場の設定



(7) 指導の実践

・学習内容の明確化

学習のはじめに、個人でそれぞれの術に挑戦させ、児童に自分自身の課題を持たせた。そして、それぞれのコースで白忍者、黄忍者、青忍者、レジェンド忍者の4つの難易度を設定し、児童の実態に応じて難易度を変え、術に挑戦させるようにすることで段階的に技の完成度を高めることができた。

・単元構成の工夫

場の設定を工夫したり、いろいろな動きを、忍者の術として児童に取り組みせたりすることで、児童の学習に向かう意欲を高めるようにした。また、単元の最後には身につけた術を全校の前で披露することを第1時に児童に伝え、ゴールを明確にして学習に取り組ませるようにした。

	へんしんのじゅつ	くるりんぼのじゅつ	とびとびのじゅつ	かべのぼりのじゅつ
白	・さいごまでいく。	・2つのわざをつかう。 ・川におちない。	・マットの中にあしをいれない。	・手のいちが白
きいろ	・ぼうは黄の高さ ・さいごまでいく。	・3つのわざをつかう。 ・川におちない。	・マットの中にあしをいれない。 ・黄にんじゃにタッチする。	・手のいちが黄
あお	・ぼうは青の高さ ・さいごまでいく。	・4つのわざを正しくする。 ・川におちない。	・マットの中にあしをいれない。 ・青にんじゃにあしでタッチする。	・手のいちが青 ・体はまっすぐ
レジェンド	・ぼうは赤の高さ ・さいごまでいく。	・4つのわざをつかう。 ・川におちない。 ・と中でとまらない。	・マットの中にあしをいれない。 ・赤にんじゃにあしをのぼしてタッチする。	・手のいちが青 ・体はまっすぐ ・となりのろくほくまでうごく。



・学び合いの充実

iPad をチームで活用させ、自分で動きを確認する事や友だちにアドバイスする事をしやすくさせた。また、技のポイント等、既習事項を側面の壁に掲示しておき、児童が振り返りをしやすくさせた。さらにマットを使った運動遊びが得意な児童と苦手な児童を意図的にグルーピングし学び合いを促した。



2 成果と課題

【成果】

- 場の設定や単元構成の工夫を行うことで児童が今まで以上に意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになった。
- 児童から出た技のポイントをまとめて体育館側面に掲示しておくことで、積極的に友達にアドバイスをすることができていた。それに伴って、各児童の技能の向上が見られた。

【課題】

- ICT の活用では、操作をスムーズに行えず時間を有効に使えないことがあった。低学年向けの ICT 活用方法を考える必要がある。
- 回転や腕支持をそれぞれの技で正しく児童に意識させることができていなかった。技の評価方法を見直す必要がある。